

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙 3章 10~13 節>

① 「天上の支配や権威」(10 節)とは何のこと？

「こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、**天上の支配や権威に知らされるようになった**。これは、神が私たちの主イエス・キリストによって実現された永遠の計画に沿うものです」(10-11)。ここで「天上の支配や権威」とは何のことでしょうか？ 天上とあるので良いものかと思いますが、そうではありません。1 章 21 節や 2 章 2 節「この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち不従順な者たちの内に今も働く霊」を読むと、むしろ異邦人信仰者である手紙の読みてちがかつて支配されていた色々なものを指していることが分かります。キリストにおいて実現された神様の計画を知ったので、他のあらゆる力あるものを恐れなくなった。パウロもエフェソの信仰者たちも知った恵みです。それが、「**今や教会によって…知らされるようになった**」、とされていることにも注目しておきましょう。

② 「大胆に神に近づくことができます」と言える理由。

だから、この 11 節に続けてパウロはこう言えるのです、「**私たちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができるのです**」(12)。「大胆に神に近づける」、凄い言葉ですね。キリスト者を死に追いやっていたパウロなのに、どうしてこんなことが言えるようになったのでしょうか？ 前半の言葉にその理由が示されています。「**キリストに対する信仰により**」とは、父なる神が実行された「御子キリストを信じる者を赦し受け入れる計画」を堅く信じることを言っています。「**私たちは主キリストに結ばれており**」という言葉にパウロが込めた思いも同じです。要は、パウロもエフェソの信仰者も、もう自分のこと(自分の過去、自分の欠点等々)を見つめるのは止め、このイエス・キリストを、この神様が行われたことを見つめて生きる者になったのです！ だから、「**大胆に神様に近づける**」と言えるようになったのです！ そうなると、起こって来る色んな苦難も、もう怖くなくなって来るのです(13 節)。隣れみに満ちた唯一の創造主なるこの神様を信じて生きること。それが現代人である私たちにとっても、色んな恐れから解放される真の救いの道なのです！